

中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

大町岳陽高校 冬山合宿 (同行の米山悟さんより)

2月11日、12日大町岳陽高校は、冬山合宿を行った。場所は鹿島槍スキー場上部黒沢尾根。今回はテントは持たず、イグルー泊を行った。イグルー作りの指導は、高校の後輩でNHK山岳カメラマンの米山悟さんをお願いした。以下、米山さんの目を通して見た今回の合宿の様子です。米山さんのイグルーづくりは以前かわらばんでも紹介した(かわらばん No.539/2015/3/15)が、ちくまプリマー新書「冒険登山のすすめ」(かわらばん No.593/2016/11/23で紹介)で読めるので、興味のある方はお読みください。今回生徒たち(僕も)が作った様々なイグルーの写真を見たい方は以下のHPでどうぞ。

<https://www.yamareco.com/modules/yamareco/detail-1379316.html>

高校山岳部の冬山合宿でイグルー講習に。生徒8人は3人×2のひょうたん型と2人用の1こ作る。合計5つ建造。

はじめに2人用を三十分で作って見せて、生徒の住宅用を自作してもらおう。ブロック切りの技術を掴み取るのに多少かかり、屋根部の狭めかたも少し早まったのでやり直しあり。2時間ちょっとで寝られるやつが完成。はじめ晴れていたけど時折吹雪いて降雪も始まった。めいめい潜って一晩過ごす。

生徒のは隙間塞ぎきれていないイグルーで、吹き込んだようだ。雪の上で泊まるのが初めてな生徒は寒かったと思うが、テントよりは静かで温かいんだよね。

二日目は標高点1599で、大町の山岳総合センターの社会人の冬季講習組を訪問して、そのままボトル台地へ。部歌放吟。佐野坂峰までいくのは吹雪いているので取りやめて引き返す。帰りにピット掘って、指先チェック、弱層チェック、最新ビーコンを使った雪崩埋没者捜索練習もやった。高校山岳部でここまでやるところは無いよ。

部員の方のイグルーはブロックでフタせず、ツェルト入り口だったようで、それも吹き込みの要因かも。最後の締め方、もっと念を押せばよかったか。

高校山岳部は、冬用シュラフや冬用登山靴が皆は持って無いし、最近の山スキーは高価だから、みんな雪国育ちでスキーうまいのに、わかなかスノーシューとなる。ジルブレッタみたいな、登山靴でも履ける安価なスキービンディングを復活してもらいたいと思う。

30年ぶりに訪れた鹿島集落は、スキー場の西側アプローチ道になっていた。以前の行き止まり集落感が少々薄れていた。爺ヶ岳東尾根下山して、鹿島のおばばの前で呼び止められて、野沢菜とお茶をごちそうになったなあ。屋敷は今もありました。大西さんに教わらないとわからなかったけれど。

16,17歳のユーゲントは成長の盛りだ。一年目は無垢で二年目の成長は凄い。大切なことは、センパイから教わる。この時期でなければ気づけ無いことも多々ある。

編集子から、若干の補足をします。2月11日は冬型が強まるということで、悪天が予想されたが、意外に天候は持ったラッキーな一日だった。今回は男子生徒8名のみとい



手前ひょうたん型を作る生徒 奥の二つは米山作と大西作



雪降る夜のイグルー村

後、私も40分ほどで一人用を作る。生徒たちはやや大型の3人用を2つつなげたひょうたん型と2人用。3人ずつでつくるひょうたん組は、出来上がり間際で何回か屋根が崩落、積みなおし数回ののち、なんとか完成。地道に丁寧に積んでいく2人組のイグルーもやがて完成した。さながら、イグルー村。冬型が強まり、風雪が強まったが、イグルーの中は静かだ。

翌日は、そこそこ風も吹き、雪も降っていたが、読図をしながら、雪山を歩いた。夏は藪山でも、雪が降ることでフィールドが広がる。米山さんのレポートにある通り、いろいろな体験ができ、冬型の気圧配置の中で、もうけものの2日間だった。

編集子のひとりごと (高雪研 I N秋田)

秋田県高体連登山専門部の高雪研は新潟のそれと時を同じくして行われた。それで、小生は2日に新潟での話を終えたあと、午後4時の新幹線に飛び乗って秋田へと移動したのだった。秋田へ到着したのは午後9時過ぎ。秋田での高雪研は、以前からある秋田県高体連登山部の登山テキストを改訂するという作業も並行して行われており、会場に到着するとまだ熱心にその作業が続けられていた。これも栃木の事故を受けてのことだと推察した。小生の講義「那須雪崩事故検証委員会の報告」は、翌日に行ったが、皆さん熱心に聞いてくださった。私自身この報告を全国でさせていただく中で、いろんな反応をいただき、勉強させてもらっている。言葉足らずの面は否めないが、事故報告書に僕ら検証委員が盛り込んだ内容を一人でも多くの高校関係者、ひいては登山関係者に共有してもらいたいと思う。あの事故は決して他人事ではない。(大西 記)

う少し寂しい山行になってしまったのが残念。しかし、ゲレンデトップから一步踏み込んだだけで、そこは生徒たちにとっては全く未知の世界。圧雪されていない雪をラッセルで進み、誰の踏み跡もない純白の幕営地は、ゲレンデからわずか300mほどの場所でも異次元の世界。そんな場所でのイグルー生活というだけで、生徒の期待値はぐーんと跳ね上がる。

時折突風が吹き、雪煙が上がる中、まずは米山さんの実演。30分ほどで完成。その